

# J A B E E

## 通信

(第85回)

日本女子大学家政学部住居学科 J A B E E 認定までの歩み(5)  
日本女子大学 家政学部住居学科 教授 J A B E E 対応責任者

石川 孝重

### 日本技術者教育認定機構

## 五. 建築 J A B E E 五年認定と今後

二〇〇四年五月に、機構より、建築 J A B E E 五年認定を拝受した。この過程で学科内でもっとも時間を費やしたことは、学習・教育目標の設定と、目標ごとの学習保証時間の担保である。住居学科としての特色をもたせた学習・教育目標を何とするか、これまで脈々と受け継がれてきた精神を、各目標に落とし込む作業は、教員全員での議論のなかで、もっとも時間を費やした。さらに、その学習・教育目標への各科目の寄与率を時間配分として当てはめ、学生個々の学習保証時間とその達成度を評価できるシステムを構築した。 J A B E E 認定コースに登録した学生には、エッセルの簡単な操作で、各目標に対する学習保証時間の達成度が自己評価できるプログラムソフトを開発提供した。その結果をもとに、各教員が個別指導にあたるようにしている。

また、工学基礎としての数理自然科学目の充実は、試行審査でも指摘された。家政学部に位置する本学科にとつて、理数系科目の学習保証時間を確保することは難題の一つである。

この対応だけでなく、最近の学生の論理性の希薄さを補完するため、住居・建築を学ぶ者として最低限知っておいて欲しい知識レベルを、積極的に、数理・自然系の総合科目の中から指定して履修させるという方策をとった。これには、総合科目に科目提供している本学理学部の先生方の協力によるのが大きい。

二〇〇四年度には、数学を補完する基礎的な科目を、学科として提供した。 J A B E E 認定コースの学生のみならず、広く学科の学生にはできるだけ履修するよう勧めている。

もう一つ試行審査・本審査を通して指摘を受け、学科でもっとも腐心しているのが、教員の教育貢献評価システムの構築である。本学科では、教育への貢献につながる様々な項目をポイント化し、年度ごとに教員相互で評価するモデルを試作した。教育への貢献度は、数値ではかれるものでは無論ない。それをいかに客観化して根拠が明確な評価システムを作り、それを、実際の貢献度評価として反映するか、さらなる改善が必要である。

学生も含め学科スタッフ全員が一致団結して、作業を分担し、 J A B E E 認定という一つの

目標に向けて、ある期間集中したからこそ、本質的な収穫も多々あった。 J A B E E 認定の取り組みをきっかけに、入試制度の抜本的見直し、各科目の授業内容に関する相互理解、関連分野の科目内容の調整、学科カリキュラムの総括的な見直し、学生への評価基準の開示、学生とのコミュニケーション手段の多様化、そして何より、教育に向かう教員自身の姿勢に変化を生んだ気がしている。一方で、 J A B E E 認定を受けるために、専任・非常勤の各教員、学科中央研究室、エビデンスの管理・収納場所、様々な意味での負担が増大していることも事実である。試行審査、本審査を受ける過程で、「教育改善が目的の J A B E E のために、教育にあてる時間が削られたら本末転倒だ」という、冗談にならない会話も聞かれた。これから長くこのシステムを改善・維持していくには、教員が真の教育改善にあてる時間を増やすべく、負担軽減の方策が課題である。本学科でも現在、教育改善会議八〇回を数え、学習・教育目標のスリム化やエビデンスの作成・保管・整理の方法などについて改善を推し進めている。(了) ■